

## 胆振管内市町における被災地支援の取組状況

市町村名	物的支援	人的支援	受入体制	その他 (見舞金等)	民間等の動き(新聞情報で整理)
室蘭市	<p>○市からの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活用水(9リットルパック)100個を宮城県へ提供(3.20)</li> <li>防災フロートにより、500mlパックボトル飲料水9600本を福島県へ提供(3.22)</li> </ul> <p>○市民からの救援物資</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毛布、ティッシュ、紙おむつ、インスタント麺、缶詰などを被災地に搬送(3.9、4.6、4.11)</li> </ul>	<p>■オール胆振(5名)</p> <p>○宮城県山元町派遣 4.1-4.9:1名/4.13-4.21:1名</p> <p>○宮城県仙台市派遣 (宮城野区～戸籍・住民台帳関係業務) 4.17-4.23:1名/4.24-4.29:1名 (若林区～避難所対応等) 4.23-5.3:1名</p> <p>■市独自(64名)</p> <p>○消防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人員輸送業務のため、人員搬送部隊1隊2名(計12回)24名と災害支援車1台(26人乗)を派遣(3.16-4.下旬)</li> <li>後方支援隊2名を派遣(4.1-4.7)</li> <li>救急隊5名と救急車1台を派遣</li> </ul> <p>○水道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応急給水業務のため、宮城県仙台市に職員3名派遣(3.19-3.29(2名)、3.26-3.31(1名))</li> </ul> <p>○下水道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管路施設調査のため、職員2名を岩手県久慈市に派遣(3.30-4.7)</li> <li>職員2名を宮城県岩沼市に派遣(3.30-4.7)</li> </ul> <p>○市立病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>D-MAT(災害派遣医療チーム)を千歳航空自衛隊に10名派遣(3.11-3.15)</li> <li>災害支援ナースとして岩手県、宮城県に看護師2名を派遣(3.25-3.30)</li> <li>医療救護班として、宮城県気仙沼市に医師や看護師等5名を派遣(4.14-4.20)</li> <li>「こころのケアチーム」として、医師や看護師等4名を派遣(6.5-6.11)</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災建築物応急危険度判定のため、職員1名を宮城県多賀城市に派遣。</li> <li>被災建築物応急危険度判定のため、職員1名を福島県郡山市に派遣。</li> <li>健康管理やこころのケア等の業務のため、保健師3名を岩手県盛岡市に派遣。</li> </ul>	<p>○提供住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市営住宅:5戸</li> <li>雇用促進住宅:511戸</li> </ul> <p>○受入状況(5戸9名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮城県:3戸6名</li> <li>福島県:2戸3名</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公営住宅の入居に際し、ストーブ、照明器具、ガス湯沸器、ガスコンロを貸与。</li> <li>市立病院で、透析患者などの受入体制を整備</li> </ul> <p>○総合相談窓口:総務部総務課</p>	<p>・見舞金 2,000万円 (東北市長会を通じて)</p>	<p>○FMびゅうが、被災地にラジオを送る取組を展開。市民に協力を呼びかけ。(H23.4.3室民)</p> <p>○ペットサロン「Dog in ショーリログ」が被災地の犬などのペットフードや水、首輪、タオルなどを支援物資として提供。(H23.4.6室民)</p> <p>○市社会福祉協議会に寄せられた善意のランドセル35個を仙台市の施設に送った。(H23.4.7室民)</p> <p>○室蘭友の会の会員が、被災地に送る支援物資を手作り。動き着のスモックエプロンと省エネ調理のための鍋帽子の2種類。全国友の会中央部を通じて現地へ。(H23.4.12室民)</p> <p>○「てつのみちぶろじえくと」が、被災地応援商品「がんばれ日本!ナッティ」の販売をポルタ工房等で開始。売り上げの一部は被災地に送られる。(H23.4.22室民)</p> <p>○道南バスが、「がんばろう東北!」のステッカーを掲げたバスの運行を開始。復興の輪を広げ、自粛ムードで停滞する経済や気持ちの落ち込みを乗り越えようと願いを込めたもの。(H23.4.22室民)</p> <p>○室蘭カレーメンの会がカレーメンのカップめん1,200個を室蘭市に提供(H23.4.27道新)</p> <p>○栗林商会在、海外の用船会社から預かった支援物資のミネラルウォーターを室蘭市に託す。市は市職員派遣に併せて被災地に届ける。(H23.4.28室民)</p> <p>○FMびゅうが、宮城県亶理町のFMあおぞらの支援を開始。室蘭で放送した3番組を提供し、声による励ましとともに現地スタッフの負担軽減に一役。(H23.5.14室民)</p> <p>○被災者支援を目的に市民有志が企画したチャリティイベント「Relive～よみがえるチカラ」が道の駅みたらで開かれ、音楽ステージやバザーを通じて義援金を募った。(H23.5.16道新)</p> <p>○室工大の学生がボランティア団体を立ち上げ。夏休み中に被災地で復興支援などにあたる。(H23.5.17室民)</p> <p>○室蘭中央飲食店組合が、室蘭市中央町で「東日本大震災チャリティ春祭り」を開催。前売りチケット、露天の売り上げなどは、組合加盟店が行っている募金と併せて被災地へ送られる。(H23.5.23室民)</p> <p>○造船・遊漁など海運業の平成産業株が宮城県南三陸町に漁船18隻を無償提供。(H23.5.28室民)</p> <p>○7月30日から8月4日まで東北物産協会主催の「第2回東北の物産まつり」を室蘭市中島町の向陽公園で実施。(H23.7.29室民)</p> <p>○西胆振ボランティアや支援団体が撮影した「東日本大震災写真展」がむろらん広域センタービルで写真50点を8月1日から8月5日まで公開。主催は「登別、室蘭、伊達の有志による実行委員会」。(H23.8.3室民)</p> <p>○室蘭地区陶芸協会が東日本大震災復興支援として、チャリティー展示即売会を実施。(H23.9.12室民)</p> <p>○民間ボランティア団体「東日本大震災被災者対策北海道室蘭」が、被災家族の受入を実施(H23.9.14道新)</p> <p>○被災者を励ますため、「YELL(エール)」をテーマに、室蘭工業大学が工大祭を開催。募金活動などを実施。(H23.9.22室民)</p> <p>○宮城県亶理町産のいちごを使用してきた市内の洋菓子店が、支援ステッカーの販売や義援金の募集を実施(H23.9.28室民)</p> <p>○室蘭市の中島地区の商店街でつくる中島商店街コンソーシアムが、岩手県の名産品を販売する「被災地支援物産展」を実施(H23.11.4道新)</p> <p>○「かつてに復興の狼煙プロジェクト」による被災地ポスター展が市民活動センターで実施。(H24.1.27室民)</p> <p>○「東日本大震災復興プロジェクト in 室蘭」がチャリティーバザーを実施。(H24.1.30室民)</p> <p>○室蘭のやきとり店「やきとりの一平」が2月9日から福島県のブランド地鶏を鍋料理に使用(H24.2.9道新)</p>

市町村名	物的支援	人的支援	受入体制	その他 (見舞金等)	民間等の動き(新聞情報で整理)
苫小牧市	<p>○市からの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市備蓄品より毛布800枚を提供</li> </ul> <p>○市民からの救援物資</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙おむつ52,582枚、簡易トイレ150基、ペーパートイレ19,024枚、発砲スチロールおわん7,487枚、割箸63,188枚など</li> </ul>	<p>■オール胆振(5名)</p> <p>○宮城県山元町派遣(避難所支援)</p> <p>4.1-4.9:1名/4.7-4.15:1名</p> <p>○宮城県仙台市派遣(宮城野区～戸籍・住民台帳関係業務)</p> <p>4.9-4.17:1名/4.17-4.23:1名/4.24-4.29:1名</p> <p>■市独自(56名)</p> <p>○消防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別救助隊1隊、支援隊1隊、隊員7名派遣(3.16-3.21)</li> <li>・消火隊1隊、支援隊1隊、隊員7名派遣(3.22-3.27)</li> <li>・支援隊1隊、隊員2名派遣(3.28-4.2&lt;2名&gt;、4.5-4.11(2名)、4.21-4.27(2名))</li> <li>・消火隊1隊、5名派遣(4.13-4.19)</li> </ul> <p>○上下水</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給水タンク付き車両及び人員2名派遣(3.19~29&lt;2名&gt;、3.26-3.31&lt;2名&gt;、5.16-5.25&lt;2名&gt;、5.21-5.30&lt;2名&gt;)(日本水道協会の要請)</li> <li>・下水道施設の被害調査員として車両2台、技術者4名派遣(3.30-4.7)</li> </ul> <p>○市立病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療救護班6名(医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名)を宮城県気仙沼市に派遣(4.1-4.7)</li> <li>・医療救護班5名(医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名)を岩手県陸前高田市へ派遣(5.20-5.26)</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災家屋の危険度調査のため「応急危険度判定士1名を宮城県多賀城市に派遣(4.18-4.22)</li> <li>・応急仮設住宅の設計監督業務員として、技師(機械)1名を宮城県仙台市に派遣(5.15-6.15)</li> <li>・巡回健康相談及び避難所における健康支援として、保健師5名を宮城県気仙沼市に派遣(5.14-5.21(2名)、5.20-5.27(1名)、5.26-6.2(2名))</li> <li>・応急仮設住宅の工事監理及び検査業務員として技師(建築)1名派遣(7.22-8.7)</li> </ul>	<p>○提供住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営住宅:4戸</li> <li>・市職員住宅:7戸</li> <li>・雇用促進住宅:50戸程度即入居可</li> </ul> <p>○受入状況(32戸67名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県:2戸4名</li> <li>・宮城県:18戸40名</li> <li>・福島県:11戸20名</li> <li>・千葉県:1戸3名</li> </ul> <p>○その他(被災者患者受入体制の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な体制はとっていないが、要請があれば対応可能</li> </ul> <p>○総合相談窓口:保健福祉部社会福祉課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見舞金 1,000万円(日本赤十字社を通じて)</li> </ul>	<p>○苫小牧ドライビングスクールが、被災地復興に役立ててもらおうと中古のマイクロバスを現地の公的機関に寄贈。(H23.4.12苫民)</p> <p>○苫小牧市医師会が、被災地へ二つの日本医師会災害医療チーム(JMAT)の派遣を計画。(H23.5.2苫民)</p> <p>○北海道中小企業家同友会苫小牧支部の美苦みのり会が、苫小牧市の地酒「美苦」の関連商品の売り上げを被災地に贈る。(H23.5.5室民)</p> <p>○ラーメン店「ふたば屋」石巻市で1,000食分炊き出し(H23.4.11苫民)</p> <p>○苫小牧市緑ヶ丘公園まつり実行委員会が苫小牧で避難生活を送る被災者を招待(H23.5.11苫民)</p> <p>○日本料理研究会苫小牧支部が『被災されている方への昼食会』を開催</p> <p>○苫小牧港と定期航路がある大洗港が被害を受けたことから応援しよう企画し、苫小牧フェリーターミナルで茨城県大洗町の観光名所や物産を紹介する「元気に再海大洗」を展示。(H23.7.20道新)</p> <p>○苫小牧市勇弘の勇武津資料館で手織りサークル「ゆのみ」の企画により、来場者が東日本大震災からの復興を祈念し、同館所有の織機で織りつないだ布を展示。(H23.9.3道新)</p> <p>○第24回紙フェスティバル2011において、被災地へ送る折り鶴千羽を製作。(H23.9.5道新)</p> <p>○苫小牧植苗小学校の5年生が、被災した宮城県山元町の坂元小学校に応援メッセージ胃襟の布製壁掛けを送付。(H23.10.5苫民)</p> <p>○苫小牧NPO法人連合会あゆ～むが被災地の子ども達へ市民から寄せられた本の提供を実施。(H23.10.26道新)</p> <p>○苫小牧明德小学校で、図書ボランティアによる読み聞かせ会が開催され、震災で被災した子どもの作文の朗読などを実施。(H23.11.14苫民)</p> <p>○茨城・福島震災復興PR展in苫小牧をMEGAドン・キホーテ苫小牧店で実施。(H23.11.17苫民)</p> <p>○駒大苫小牧高校の吹奏楽局及びチアリーダー部が、被災地で応援ステージを実施。(H23.12.14毎日)</p> <p>○市役所ロビーにおいて、石巻日日新聞社の「手書きの壁新聞」の展示会を開催被災地への応援メッセージなどを書き込めるノートの設置や義援金の呼びかけを実施(H24.2.20~24)</p>
登別市 宮城県 白石市と 姉妹提携	<p>○市からの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市である海老名市を通じた白石市への物資の提供(3.12-3.18)</li> <li>食糧、飲料水、トレットパー、生理用品、乳児用粉ミルク・ブルーシートなど</li> <li>・生活用水用ポリ容器100枚を宮城県内の被災地に提供(3.20)</li> </ul> <p>○市民からの救援物資</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスタオル411枚、タオル2,655枚、箱ティッシュ742個、トレットパー1,330個、乳児用紙おむつ3,785個など岩手県に提供(3.31)</li> <li>・ボックスティッシュ460個を岩手県盛岡市に提供(4.15)</li> </ul>	<p>■オール胆振(5名)</p> <p>○宮城県山元町派遣</p> <p>4.1-4.9:1名/4.19-4.27:1名</p> <p>○宮城県仙台市派遣(宮城野区～戸籍・住民台帳関係業務)</p> <p>4.9-4.17:1名/4.17-4.23:1名/4.24-4.29:1名</p> <p>■市独自(25名)</p> <p>○消防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急消防援助隊第3次に消防署職員5名を宮城県石巻地区に派遣(3.19-3.25)</li> <li>・緊急消防援助隊第7次に消防署職員5名を宮城県石巻地区に派遣(4.1-4.7)</li> <li>・緊急消防援助隊第10次に消防署職員5名を宮城県石巻地区に派遣(4.13-4.19)</li> <li>・緊急消防援助隊第13次に消防署職員5名を宮城県石巻地区に派遣(4.25-5.1)</li> </ul> <p>○水道</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応急給水業務のため、職員1人を宮城県多賀城市派遣(3.26-3.31)</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅入居者の健康相談、健康指導のため、保健師2名を福島県浪江町派遣(9.4-9.11:1名/1.9-1.14:1名)</li> <li>・地震被害世帯の損害程度の認定に係る家屋調査のため、職員1名を宮城県多賀城市派遣(9.25-10.1)</li> <li>・復興支援全般業務のため、職員1名を岩手県陸前高田市派遣(11.27-1.31)</li> </ul> <p>■その他</p> <p>○登別市長が姉妹都市(宮城県白石市)など被災地を訪問(4.6-4.8)</p>	<p>○提供住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営住宅:7戸</li> <li>・公共施設:50名</li> <li>・民間施設:4戸</li> </ul> <p>○受入状況(7戸13名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県:1戸1名</li> <li>・福島県:5戸7名</li> <li>・茨城県:1戸5名</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界団体の協力による生活必需品(照明・暖房・コンロ・給湯器等)の無償貸与。</li> <li>・市費負担による生活必需品(暖房器具・寝具)の無償貸与</li> <li>・リサイクル品(食器棚・カラーボックス・テーブル・テレビ台等)を生活必需品として活用</li> <li>・日本赤十字社より家電(洗濯機、冷蔵庫、テレビ、炊飯器、電子レンジ、電気ポット)を無償貸与</li> </ul> <p>○総合相談窓口:市民生活部市民サービスグループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見舞金 1,000万円(白石市)</li> <li>・見舞金 500万円(被災地)</li> </ul>	<p>○登別温泉の源泉の成分から作った入浴剤を製造する「とろろん企画」と「湯の華本舗」が避難所で被災者が入るお風呂に使ってもらおうと、湯5トンが入る浴槽で100回分の入浴剤を無償提供。(H23.4.5道新)</p> <p>○障害者就労継続施設「月とらいおん」が、宮城県柴田町の社会福祉法人が扱う商品の販売をお手伝い。(H23.4.13室民)</p> <p>○登別市郷土資料館の運営を支えるボランティアグループ・SLGが、応援メッセージ入り鯉のぼり2匹を作成。激励の手紙とともに宮城県釜石市の小学校に送る。(H23.4.17室民)</p> <p>○登別まちづくり促進期成会主催の「震災チャリティ物産販売会」が開催。姉妹都市の宮城県白石市の名産品を販売。売上金の全額を義援金として送る。(H23.4.30室民)</p> <p>○登別観光協会が、復興応援キャンペーンを展開。収益から100万円を義援金として送るほか、宿泊客1万人に千円分の買い物券をプレゼント。(H23.5.3道新)</p> <p>○登別室蘭青年会議所が、被災した子どもたちに文房具を贈る支援プロジェクトを開始。市民から文房具・絵本類6千点以上が寄せられた。(H23.5.18室民)</p> <p>○登別室蘭青年会議所が、被災地の復興を願い、2千人の両市民の笑顔写真を使い、モザイクアートを作成(H23.9.18室民)</p> <p>○市内の木工芸会社が震災の被災者を励ますため、自社製の臼と杵を岩手県陸前高田市の町内会に贈呈(H23.11.29朝日)</p> <p>○登別カレンダー実行委員会が、登別市、宮城県白石市、神奈川県海老名市と共同で、カレンダーを作成。益金の一部を被災した白石市に寄付。(H23.12.10道新)</p>

市町村名	物的支援	人的支援	受入体制	その他 (見舞金等)	民間等の動き(新聞情報で整理)
伊達市 宮城県亶理町・山元町 柴田町、 福島県新地町と姉妹提携	○市からの提供 ・畳、マット、衛生用品等を宮城県亶理町及び山元町に提供(3.15) ・毛布、飲料水、食品、ミルク、下着、オムツ、タオル、体温計、医療用手袋などを宮城県山元町に提供(3.20) ・第2次支援隊とともに宮城県山元町に生鮮野菜や乳製品を提供(3.25) ○市民からの救援物資 ・粉ミルク、トイレットペーパー、箱ティッシュ、紙おむつ、学用品など(4.21)	■オール胆振(14名) ○宮城県山元町派遣 3.25-3.31: 6名/4.1-4.9: 2名/4.7-4.15: 2名/4.13-4.21: 2名/4.19-4.27: 2名 ■市独自(30名) ○先遣隊延べ12名を宮城県亶理町・山元町・柴田町、福島県新地町に派遣(3.15-3.20) ○第1次支援隊18名(市12名、消防署1名、日赤奉仕団5名)を山元町に派遣(3.20-3.27) ■その他 ○伊達市長が姉妹都市・友好都市4町ほかを見舞い訪問(3.28-3.30、4.18-4.20、5.16-5.17)	○提供住宅 ・市営住宅: 1戸 ・民間社宅: 23戸 ・民間賃貸住宅: 3戸 ○受入状況(7戸15名) ・福島県: 1戸4名 ・宮城県: 6戸11名 ○その他 ・生活用具(電化製品、家具、家電等)の貸与 ・宮城県亶理町イチゴ農家(10戸程度)誘致予定(6戸11名受入済) ○総合相談窓口: 総務部総務課	・見舞金 2,900万円 ・姉妹都市への見舞金 約7,100万円 (市民からの募金による)	○伊達商工会議所が、被災した姉妹都市を元気づけるため「東北大震災復興支援イベント」の開催を決定。姉妹都市の特産品を取り寄せ販売し、売上の10%を災害復興支援金として贈呈する。5月、8月、9月に実施。(H23.5.10室民) ○宮城県亶理町は「とちおとめ」などをつくる東北最大のイチゴ産地だが、被災したイチゴ農家を支援したいと受け入れ伊達市で再起を支援。(H23.6.8読売) ○伊達市東小学校に姉妹都市の宮城県亶理町亶理小学校の6名が交流に訪れた。震災後の5月には児童一人一人がメッセージを書いた折り鶴を亶理小学校へ送っており、震災後の支援や激励への感謝を伝えた。(H23.9.9室民) ○復興支援チャリティライブ開催(H23.9.7室民) ○苫小牧市の小学生が考案し、商品化された「いちご復興パン」を伊達市でいちご栽培を行う宮城県亶理町からの移住農家にプレゼント(H23.9.13室民) ○伊達市シルバー人材センターが「あおぞらフリーマーケット」での売上金を見舞金として被災地へ送る。(H23.9.30室民) ○伊達商工会議所が、東日本大震災の復旧工事で人出不足となっている姉妹都市・宮城県亶理町の建設会社支援を行うため、市内の建設会社等に説明会を実施。(H23.11.11道新) ○ホテルローヤルが、創業40周年記念イベント「春待ちあったかフェスティバル」(H24.2.26)での募金、売上金の一部、を震災支援金として寄附。 ○宮城県亶理町の建設業者でつくる「災害防止協議会」と伊達商工会議所が2月22日に被災地復興支援事業協定書の調印式を実施(H24.2.23道新)
豊浦町	○町民からの支援物資 ・カップ麺、トイレットペーパー、箱ティッシュ、ノートなど(4.8、4.15、4.22)	■オール胆振(3名) ○宮城県山元町派遣 4.7-4.15: 1名/4.13-4.21: 1名/4.19-4.27: 1名	○提供住宅 ・町営住宅: 8戸(3LDK6戸、1LDK2戸) ・公共施設: 1戸(3LDK 家具、家電付) ○受入状況 - 福島県須賀川市から、夏休みを利用した一時避難者を公共施設(移住体験住宅)に受入(8月1日~22日) ○総合相談窓口: 企画調整課	町内の床上浸水世帯(15件)へ見舞金 町長訪問(3.17) 町内被災者へ義援金・共同募金を配分(4.28)	H23.6.5 第40回いちご豚肉まつり(2年ぶり開催) 「東日本大震災復興支援」として、益金の一部を義援金、募金箱を設置(H23.5.24 現在)
壮瞥町	○町からの提供 ・畳238枚(スタロ床80、わら床144、特殊サイズ14)や毛布640枚、缶詰副食66缶、紳士用防寒ブーツ97足、日赤日用品600セット、防寒ジャンパー74着、防寒ズボン78着など(3.25) ○町民からの救援物資 ・カップ麺、缶詰(4.13)	■オール胆振(3名) ○宮城県山元町派遣 4.7-4.15: 1名/4.13-4.21: 1名/4.19-4.27: 1名	○提供住宅 ・町営住宅: 1戸 ・公共施設: 87名 ・民間施設: 2戸 ※被災者・避難者が入居できる民間空家情報を募集中 ○受入状況 - ○総合相談窓口: 総務課	・見舞金 840万円 (岩手・宮城・福島3県とその沿岸部の自治体へ) ・見舞金 約571万円 (連合自治会ほかより)	○H23.10.9第35回そうべつりんごまつり(2年ぶり開催) 「東日本大震災復興支援」として、会場に募金箱を設置し、募金9,181円がりんごまつり実行委員会より町社会福祉協議会に寄付され、北海道共同募金会を通じ被災地に送金。 ○H23.11.14昭和新山国際雪合戦実行委員会が「雪合戦・友情の雪球募金」を呼びかけ、募金を岩手県、宮城県、福島県の各雪合戦連盟それぞれに116,260円づつを送金。(被災地復興、雪合戦を楽しめるくらい元気になることを願い、被災地及び近郊で大会運営する団体や雪合戦チームの一助となることを目的として。) ○H24.1.23昭和新山国際雪合戦実行委員会が、第24回昭和新山国際雪合戦の参加チームから恒例の雪球チャリティーとして1チーム1,000円を寄付頂き、これに同実行委員会が端数分を加えて、岩手県、宮城県、福島県の各雪合戦連盟それぞれに51,000円づつを送金。(全国の雪合戦の仲間達から被災地の雪合戦の仲間達へ。)

市町村名	物的支援	人的支援	受入体制	その他 (見舞金等)	民間等の動き(新聞情報で整理)
白老町 宮城県 仙台市と 姉妹提携	○町からの提供 ・飲料水(給水1tタンク車1台派遣) ・仮設トイレの提供(3基・6人分の搬送) ・リンゴ等を仙台市に搬送(3.18) ・町職員4人が仙台市の避難所へ道産サケ1千匹を持ち込み、焼きサケを提供(4.2)	■オール胆振(6名) ○宮城県仙台市派遣 (宮城野区～戸籍・住民台帳関係業務) 4.9-4.17:1名/4.17-4.23:1名/4.24-4.29:1名 (若林区～避難所対応等) 4.11-4.21:1名/4.17-4.27:1名/4.23-5.3:1名 ■町独自(27名) ○災害支援隊(6名)の派遣(3.15-3.25) ○災害支援隊(6名)の派遣(3.22-3.31) ○災害物資輸送隊等(6名)の派遣 3.21-3.23:1名/3.24-3.26:1名/3.31-4.5:2名/4.1-4.5:2名 ○第5次緊急消防援助隊に2名の消防担任を派遣(3.25-3.30) ○第8次緊急消防援助隊に5名の消防担任を派遣(4.5-4.11) ○第11次緊急消防援助隊に2名の消防担任を派遣(4.17-4.23)	○提供住宅 ・町営住宅:8戸 ○受入状況(1戸3名) ・福島県:1戸3名 ○その他 ・就労支援(町内就労窓口有り) ○総合相談窓口:総務財政部 総務課 防災危機管理室	・見舞金 300万円 ・町民からの募金 1,400万円 (姉妹都市・仙台市へ) ・見舞金 200万円 (石巻市) ・姉妹都市からの義援金 130万円 (国際姉妹都市カナダケネル市) 町民からの募金(第2回目) (仙台市長来町:7月16日) 250万円 町民からの募金(第3回目) 223万円 町民からの募金(第4回目) 37万円	○「白老牛の店いわき」が「姉妹都市宮城県仙台市復興支援フェア」と題したセールを開催。売上金の一部を仙台市への義援金に。(H23.4.6 苦民) ○白老牛肉まつりが2年ぶりに復活。「東日本大震災・姉妹都市仙台市復興支援」を前面に、益金の一部を義援金に充てる。(H23.4.23 室民) ○町民有志グループ「被災した仙台の子ども達に元気を送ろうプロジェクト」のメンバーが、仙台市の避難所でレクリエーションや炊き出しなどを実施。(H23.5.3 苦民) ○アイヌ民族博物館の移動公演事業「アイヌミュージアムフェア」を仙台市で実施。(H24.1.27 苦民) ○白老青年会議所が、被災地の復興を応援しようと、仙台七夕祭りに参加し、来場者の警備をお手伝い。(H23.8.11 室民)
厚真町	○町からの提供 ・毛布、飲料水、医薬品、生活用水(10リットルリタンク)100個など(3.19) ○町民からの救援物資 ・食料品:カップ麺等17箱、粉ミルク5缶、生活用品:トイレットペーパー78袋、箱ティッシュ90包、生理用品10包、紙おむつ44包、学用品(ノート、筆記用具)、絵本等	■オール胆振(4名) ○宮城県山元町派遣 4.1-4.9:1名/4.7-4.15:1名/4.19-4.27:1名 ○宮城県仙台市派遣 4.11-4.21:1名(若林区～避難所対応等)	○提供住宅 ・町営住宅:8戸 ・公共施設:4戸(ちよっと暮らし住宅:1戸)及び小学校に30名 ○受入状況(3戸6名) 福島県:2戸3名 岩手県:1戸3名 ○その他 就労支援(埋蔵文化財発掘業務) ○総合相談窓口:まちづくり推進課 子育て支援グループ	・見舞金 計 200万円 (岩手県、宮城県、福島県)	○郵便局の職員有志を中心としたボランティアグループ「あつまっぶる」が、地道に続けてきたリングブル回収を行かし、被災地に車いすを寄贈。(H23.6.1 苦民)
洞爺湖町	○町からの提供 ・毛布やトイレ、飲料水など(3.22,3.30) ○町民等からの救援物資 ・とうや湖農協がジャガイモと米を宮城県に搬送(3.24) ・トイレットペーパー、箱ティッシュ、紙おむつ(3.30)	■オール胆振(4名) ○宮城県山元町派遣 4.1-4.9:1名/4.13-4.21:1名/4.19-4.27:1名 ○宮城県仙台市派遣 4.11-4.21:1名(若林区～避難所対応等) ■町独自(3名) ○職員3名を岩手県宮古市に派遣	○提供住宅 ・町営住宅:空いた時点で優先的に入居可能 *現在待ちの被災者はなし ・公共施設:4箇所30名 ○受入状況(3戸11名) 宮城県:2戸6名 福島県:1戸5名 ○その他支援 ・小中学校の通学及び給食費の免除、教科書・文房具類の提供(4月上旬～) ・災害ボランティアを募集(4.1～) ・滞在中の衣類及び日常必需品の調達の協力 ○総合相談窓口:企画防災課企画防災グループ	・見舞金 1,700万円 岩手県、宮城県、福島県 各300万円 青森県、茨城県 各100万円 仙台市、亶理町等10市町 計600万円 ・町内の義援金約450万円 (日本赤十字社を通じて)	○とうや水の駅でチャリティイベントが開催。楽器演奏やバザーなどが繰り広げられ、町内外から訪れた来場者が復興を願い募金箱に義援金を投じた。(H23.4.18 道新) ○洞爺湖温泉観光協会が、被災地の復興を願う缶バッジなどを作製。(H23.4.23 室民) ○NPO法人メイクザヘブン企画により震災と原発事故の影響で野外で遊ぶことができない被災県親子を対象に2週間から1ヶ月間、洞爺湖温泉街に受け入れる「洞爺バケーション」を実施。7月25日78人、7月26日56人、8月9日45人(予定)が参加する。(H23.7.26 室民) ○NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会が、福島・宮城・岩手3県の親子約100人を招待し、ピエロ芸や皿回しなどユニークな芸などを実施。(H23.8.12 道新) ○虻田小学校が、今夏滞在し、交流した岩手、宮城、福島の子に全校児童の合唱を収録したDVDを送付(H23.11.17 道新)

市町村名	物的支援	人的支援	受入体制	その他 (見舞金等)	民間等の動き(新聞情報で整理)
安平町	<p>○町からの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活用水(20リットルリタンク)100個を宮城県被災地に提供(3.19)</li> <li>・飲料水や毛布、缶詰など(3.23)</li> </ul>	<p>■オール胆振(4名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宮城県山元町派遣 4.1-4.9:1名/4.13-4.21:1名/4.19-4.27:1名</li> <li>○宮城県仙台市派遣 4.17-4.27:1名(若林区~避難所対応等)</li> </ul> <p>■町独自(1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○物資搬送のため、職員1名を山元町等に派遣(4.20-4.23)</li> </ul>	<p>○提供住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営住宅:8戸</li> <li>・職員住宅:1戸</li> <li>・教員住宅:2戸</li> </ul> <p>○受入状況(12戸25名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県:9戸17名、福島県:2戸5名</li> <li>・茨城県:1戸3名</li> </ul> <p>○その他(受入支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園や小学校等に係る入園料や保育料、給食費を最大1年間免除。</li> <li>・公営住宅等に入居した場合、最大1年間の家賃、水道料金等免除</li> <li>・就労支援窓口の設置</li> <li>・公営住宅等町有施設に入居した被災者に商品券(単身者20万円分、世帯40万円分)</li> </ul> <p>○総合相談窓口:総務課総務防災グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見舞金 300万円(宮城県)</li> <li>・見舞金 100万円(山元町)</li> <li>・町内での義援金募金 約390万円(中央共同募金会を通じて)</li> <li>・町長及び議長が町内の被災地関連企業(7社)を見舞い訪問(3.30)</li> </ul>	<p>○チーズ製造会社が、町特産で主力製品のカマンベールチーズ千個を町内企業の関連工場がある宮城県角田市や山元町の避難所8カ所を訪問し、チーズを切り分け、直接手渡した。(H23.4.26道新)</p> <p>○郵便局の職員有志を中心としたボランティアグループ「あつまっふる」が、地道に続けてきたリングプル回収を行かし、被災地に車いすを寄贈。(H23.6.1苫民)</p> <p>○民間企業による被災者の受入れ(町からの情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地に事業所を置く同じ系列会社の従業員を受け入れている。</li> </ul> <p>○「農業生産法人耕せにつぼん」を通じた被災者の受け入れ相談。(同上)</p>
むかわ町	<p>○町からの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活用水(10リットルリタンク)200個を宮城県内の被災地に提供(3.19)</li> </ul> <p>○町民からの救援物資</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタントラーメン、トイレトーパー、箱ティッシュ、生理用品、ノートなど(4.20)</li> </ul>	<p>■オール胆振(4名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宮城県山元町派遣 4.7-4.15:2名/4.13-4.21:1名</li> <li>○宮城県仙台市派遣 4.17-4.27:1名(若林区~避難所対応等)</li> </ul> <p>■町独自(医師3名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○岩手県宮古市(個人病院~避難所対応等) 5.18-5.21:1名</li> <li>○岩手県藤沢町(藤沢町民病院) 5.27-5.30:2名</li> </ul>	<p>○提供住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営住宅:2棟3戸</li> <li>・公共施設:50名</li> <li>・民間施設(社員寮):3棟51室借上、短期滞在用1棟を活用、廃校舎利用も検討(4.1)</li> <li>・未使用教員住宅15戸を改修</li> </ul> <p>○受入状況(9戸18名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県:5戸10名</li> <li>・宮城県:4戸8名</li> </ul> <p>○その他(受入支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸物産との連携で50~100名程度の被災者受入に向けた住居を確保するため、1千万円を計上。同社が町内で展開する農場での就労を支援(4月上旬~)</li> </ul> <p>○総合相談窓口:総務企画課情報防災グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見舞金 300万円</li> </ul>	<p>○農業生産法人「神戸物産エコグリーン北海道」が、被災者の就職支援を展開。最大100人規模の採用を行う方針。(H23.5.15読売)</p> <p>○福島県の子ども80人を対象に夏休みの間に自由に遊べる環境を提供しようと「福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会」主催事業に協力する形で8月2日~15日の期間受け入れする。厚真町と白老町も連携し体験学習プログラムなどを提供する。(H23.7.8苫民)</p> <p>○町内の高齢者映画制作グループ「田んぼdeミュージカル委員会」が福島県南相馬市で、上映会を実施。(H23.11.11道新)</p>

市町村名	物的支援	人的支援	受入体制	その他 (見舞金等)	民間等の動き(新聞情報で整理)
胆振総合振興局	<p>○道民からの救援物資</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・250人から食料品、生活用品、学用品など3,737箱(3.28-4.22)</li> <li>(※管内市町からの受付分を含む)</li> </ul>	<p>■オール胆振(11名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宮城県山元町派遣(避難所対応等) <ul style="list-style-type: none"> <li>3.25-3.31: 3名、4.1-4.9: 1名、4.7-4.15: 1名、4.13-4.21: 1名、4.19-4.27: 1名</li> </ul> </li> <li>○宮城県仙台市(若林区～避難所対応等) <ul style="list-style-type: none"> <li>4.11-4.21: 1名、4.17-4.27: 1名、4.23-5.3: 2名</li> </ul> </li> </ul> <p>■道独自(39名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宮城県(避難所対応等): 25名(4.7-4.14(1名)、4.13-4.20(1名)、4.19-4.26(1名)、5.13-5.20(1名)、5.19-5.26(1名)、5.25-6.1(1名)、6.6-6.13(1名)、6.24-7.1(2名)、6.24-7/1(2名)、6.30-7/7(2名)、7.6-7.13(2名)、7.30-8.6(2名)、8.5-8.12(2名)、8.11-8.18(2名)、8.17-8.24(2名)、8.23-8.30(2名)、</li> <li>○宮城県・福島県(医療関係): 11名(4.2-4.9(1名)、4.5-4.11(1名)、4.8-4.15(1名)、4.10-4.16(1名)、4.20-4.27(3名)、4.24-5.1(1名)、5.14-5.21(2名)、5.20-5.27(1名))</li> <li>○宮城県(技術関係): 2名 <ul style="list-style-type: none"> <li>10.1-12.31(1名)、1.1-3.31(1名)</li> </ul> </li> <li>○岩手県(技術関係): 1名 <ul style="list-style-type: none"> <li>11.1-11.29(1名)</li> </ul> </li> </ul> <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合振興局長が伊達市長とともに、宮城県仙台市、山元町、亶理町の被災地視察(4.18-4.20)</li> </ul>	<p>○提供施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道営住宅: 10棟13戸</li> </ul> <p>○受入状況(道営住宅分(再掲))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登別市: 2戸4名</li> <li>・伊達市: 1戸4名</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災避難者サポート登録制度「ふるさとネット」の運用(3.31～)</li> <li>・健康相談窓口</li> <li>・公営住宅入居前のホテル等の提供(4.1～)</li> <li>・家電・家具マッチングサイト「助けあい北海道」の開設(4.1～)</li> </ul> <p>○総合相談窓口: 地域政策部地域政策課</p>	<p>○職員からの義援金</p> <p>約64万円</p> <p>○管内諸会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胆振管内市町長会議(3.25)</li> <li>・被災者受入等に関する胆振管内担当会議(4.6)</li> <li>・「東日本大震災道外被災県緊急支援対策胆振地方本部」及び「北海道経済・雇用対策推進胆振地方本部 胆振緊急産業対策特別部会」合同会議(7.19)</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空間放射線量率モニタリング(3.23～)</li> <li>・道民コーナーにおいて胆振総合振興局職員による被災地支援写真展(7.11～7.29)</li> <li>・登別温泉街の大気中の放射線量を調査し、毎月第4日曜日に公表(7.25～)</li> </ul>	<p>○東日本大震災の被災地支援を官民挙げて図ろうと、むろらん広域センタービルに入居する胆振総合振興局、室蘭商工会議所などが9月22日午後5時から「むろらん広域センタービル祭り」を同センターで開催する。</p> <p>収益金の一部を東日本大震災復興支援募金として被災地へ送り、被災地復興に役立ててもらおう。(H23.9.9道新)</p>